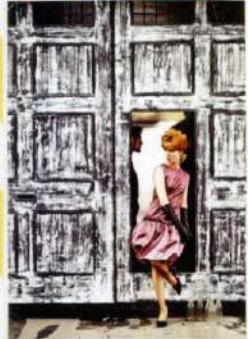


'60年代ファッションに最も影響を与えた

1960年代、イギリス発の若者文化「スウィングング・ロンドン」を牽引したマリー・クワント。「ファッションでなりたい自分になる」。当時の女性たちはマリー・クワントの服を着ることで、ようやく旧来的な価値観から解放されたのだ。



マリー・クワントのカクテルドレスを着るリエーゼ・デニス

1960年ごろ Photograph by Woburn Studios
Image courtesy Mary Quant Archive / Victoria and Albert Museum, London



マリー・クワントのブティック「バザー」のショッパーを持つモデル

1959年 Image courtesy of Mary Quant Archive / Victoria and Albert Museum, London



マリー・クワントと、ヘアスタイリングを担当していたヴィダル・サスーン

1964年 © Ronald Dumont/Daily Express/Hulton Archive/Getty Images

Mary Quant

1930年、ロンドン近郊に生まれる。'49年、ゴールドスミス・カレッジに入学、美術などを学ぶ。卒業後、高級帽子店に勤務。'55年、ブティック「バザー」を開店。'57年、アレキサンダー・ブランケット・グリーンと結婚。'63年、手頃な価格のライン「ジンジャー・グープ」や「ウェット・コレクション」を発表。'65年には下着ブランド「ユースライン」を発表。'66年、大英帝国勲章(OBE)受章。コスメライン発表。ディジマークを商標登録。'70年、インテリアイン発表。'71年、日本でコスメライン発売開始。'75年、国際的なライセンス業務に専念。2015年、2度目の大英帝国勲章(DBE)受章。

マリー・クワントは、「衣服は、なりたい自分にならなければならない」と常に言っていた。彼女は、時代のリズムと自然に合わせて活動できる、自分に嘘つかない自分。思うこと、感じることをがまんすることなく解説、表現して周囲を幸せにできる自分。そんな自分を、好きな仕事を勤めに貫くことを生きる道を生きる。

「周囲が押し付ける規範など気にせず、時代のリズムと自然に合わせて活動できる。誰にも強制させない。私は、私の生きたい道を生きる。

クワントは、「衣服は、なりたい自分になるための表現手段」と何度も力強く言っていた。誰にも魅了し、自分自身にもパワーを与えることにつながったのです」

MARY QUANT マリー・クワントの革命



ベストとショートパンツのアンサンブルを着るツイッギー

1966年 © Photograph Terence Donovan, courtesy Terence Donovan Archive. The Sunday Times, 23 October 1966

服を着るとき、つい考えてしまう。「このシャツを着たら、どう思われるだろう」でも、人からどう見られるかばかり考えていたら窮屈だ。もっと自由に、大胆に、自分のためにファッションを。1960年代、マリー・クワントが世界に革命を起こす。それがメディアに登場したミニスカートだった。この歴史的一着が、女性たちを未来のスタイルへ導く。

なぜ、スカートの丈を短くしただけのシンプルな服が、当時のイギリスの女性たちに大きな影響を及ぼしたのか。現在、スカートだった。この歴史的一着が、女性たちを未来のスタイルへ導く。

マリー・クワントが解放した
ファッション

